

吉野大臣岩手県訪問ぶら下がり会見録

(平成29年5月13日(土) 15:45～15:50 於) 普代村普代水門)

1. 発言要旨

今日はまず宮古市に行って、日本青年会議所の方々の「被災地へ心を寄せる事業」ということで、本当に有り難いことだと思いません。

そして、私の方から青年会議所の方々に、特に水産のところで売上げが伸び悩んでいる現状があるので、全国にいる青年会議所のメンバーで、東北の水産の品物をいっぱい買ってくれるような運動を起こしてくださいというふうに言いました。

あと、韓国等まだ水産物の輸入がございませんので、JC(青年会議所)という組織は世界のネットワークを持っているわけがありますので、その世界のネットワークを使って、韓国のJCの方々に岩手県を訪れて、水産物を食べて、やっぱり誤解を解いてもらおうと、こういうこともお願いをしたところです。

次は、岩泉町でございます。立派な防災センターを見させていただきました。あれは鉄道の駅と同じくして立派な防災センターで、町長さんは一生懸命復興に御努力をされている、そういう姿を見させていただきました。

次は、田野畑村の机浜番屋群です。昔の文化をきちんと伝えているところでありまして、お塩も作っておりましたので、番屋で作った塩と、スーパーで売っている塩を味比べしてみましたけど、大変おいしいということで、私は2袋買って来たところです。

そして、この普代村に来ました。本当にあの津波の高さ、あの高さまで津波が来たんですけど、この水門によって1人の犠牲者も出ることなく、本当に先人の政治家の方々の偉さがよく分かりました。

復興大臣として、それぞれの復興に御支援をしていくわけですけど、寄り添って私はやっていきたい、このように考えているところです。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 実際に今日、岩手県の市町村を見られて、具体的に今後どのような支援が必要になってくるだろうというふうに大臣は考えられましたでしょうか。

(答) ハード面は進んでおります。これからは「心の復興」ですね。私自身は津波の被害も受けていますが、津波の映像を最近見ることできなくなっちゃったんですよ。前は何でもなかったんですけど

ど、そういう意味で今こそ、心の復興、心のケア、そういうソフト面が本当に大事になってくる。このような形で岩手県への支援と、そして、特に岩手県は水産物のやはり販路拡大ですね。これを一生懸命やっていきたいと思います。

(問) 復興庁としても、その手助けをしていくと。

(答) はい。

(問) 前回の訪問が岩手県沿岸南部、今回は北の方の視察になったわけですが、それぞれ別の課題があると思うんですけども、大臣としてはその違いをどのように御覧になったのでしょうか。

(答) 町によって復興の度合い、時間軸ですけど、かなり違います。でも、どんなに復興が進んでいるところであっても、このように普代村、ほぼ完成ですけど、ここまで完成してもやはり課題はあろうかと思います。そういう課題をきちんと勉強して、支援していけるところは支援していきたい、このように考えています。

どうもありがとうございます。雨の中、御苦労さまでした。

(以 上)